大好き★出雲！ IZUMO

よすみちゃん

季刊

弥生の出雲王に出会える

# 出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM

第11号 (2013年10月)

## ★ミニ企画展

**10月26日(土)～1月20日(月)**

**出雲を掘る 第四話**

**「銭(じぇね)ー 出雲のじぇねこを考古学する ー」**

**【観覧無料】**

出雲市内の発掘調査や、工事中に偶然発見された銭を紹介します。銭から見える出雲の歴史に迫ります。

**〔主な展示品〕**市内出土の、古代から近世までの古銭や、解説パネル、写真パネルなどを展示します。

古代のお金の作り方

イラスト 松原 希

## ★ミニ企画展関連講演会

**10月27日(日)14時～16時**

**「出土銭貨からみた 出雲の貨幣事情」**

**【講師】 櫻木 晋一 氏**

(下関市立大学経済学部教授)

●場 所 たいけん学習室

●聴講料 無料

事前申込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

## ★ギャラリー展示

**9月11日(水)～10月14日(月)**

**【新・市指定文化財】**

**佐田町八幡原「岩崎家文書」**

**【観覧無料】**

本年7月、新たに市指定文化財となった「岩崎家文書」の中には、全国的にも貴重な医書が多数あります。

『医方大成論』は、慶長17年(1612)に、当時の出雲国の有力者が作った医書です。この本は、活字を組み合わせた版で印刷する「古活字版」という方法で作られています。「古活字版」は、江戸初期の50年間程しか行われなかったため、現存するものはわずかです。

『牛之書』は、牛に関する獣医学の書物で、左の図は、病状別のお灸のツボを示したものです。

この機会に、本物をぜひご覧ください。

(八幡一寛)

『牛之書』
(天正15〈1587〉年)

## ★現地説明会

**10月26日(土)10時～12時**

**上塩冶横穴墓群発掘調査**

文化財課では、県道出雲三刀屋線の道路改良工事に伴う発掘調査(出雲市上塩冶町地内)を行っています。

5月の調査開始から現在までの間に、横穴墓(1400年前頃)が20基見つかりました。調査区域は、上塩冶横穴墓群という県内有数の横穴墓群の中に位置していて、横穴墓からは、たくさんの須恵器や鉄製品などの副葬品が出土しています。

現地説明会では、出土品と共に横穴墓の中の様子も、ご覧頂く予定です。

上塩冶横穴墓群のようす

## ★特集　研究ノート⑪
### ミニ企画展
### 出雲を掘る　第四話
### 「銭（じぇね）ー 出雲のじぇねこを考古学する ー」

今回の展覧会は、古代から近世までの銭を取り上げます。

展示品の中から、珍しい銭を一点紹介します。

私たちが普通よく目にする銭は、直径約20ミリの大きさのものです。これは、基本的には一枚一文（いちまい　いちもん）として扱われ、銭の種類（銭文　せんもん）が異なっていても、価値は同じでした。

しかし、市内上塩冶町の大井谷Ⅱ遺跡から見つかった銭は違いました。

それは、一枚で十文（じゅうもん）の価値がある銭で、「当十銭（とうじゅっせん）」と呼ばれているものです（写真　上の銭）。

その銭は「崇寧重寶（すうねいじゅうほう）」（初鋳年１１０３年北宋）です。この銭は、直径約26ミリあり、普通の一文銭の約１・３倍の大きさですから、一目で一文銭（写真　下二枚）と区別がつきます。

では、なぜこのような珍しい銭が出土したのでしょうか。現在、国内では約２００枚の「当十銭」が見つかっています。その内、約60枚が博多からの発見です。このことから、日本海を経由して博多の商人と取引していた出雲の商人が使った銭ではないか、と想像することができます。

このように、一つ一つは小さな銭ではありますが、いろいろなことを気づかせてくれます。

また、壺や箱などの容器に、銭を大量に入れて地中に埋める例があり、それを備蓄銭（びちくせん）と呼んでいます。

鷺浦の阿部荒神社跡出土の壺や鉢（市指定文化財）も、備蓄銭の容器として用いられたと考えられますので、他の遺跡の備蓄銭と比較しながら見てもらう予定です。

（原　俊二）

## ★特別展「もう一つの出雲神話」を終えて

今夏の特別展では、今まで取り上げられることのなかった、中世（平安時代末～戦国時代）の出雲で語られた神話に注目しました。

遠くインドから流れてきた土地をスサノヲが築き固める神話は、鎌倉時代から江戸時代後期までのおよそ６００年間、出雲地域の文献に記され続けました。

しかし、これほどの長期間にわたって知られた神話にもかかわらず、現代の人々で、中世の神話を知る人はほとんどいません。

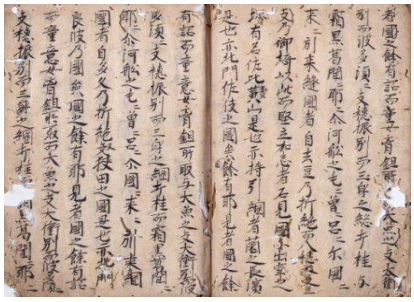
一方で、『出雲国風土記』に載る「国引き神話」の主役の名前は知らなくても、「国引き」という言葉や、神話の一節は観光パンフレットなどに掲載されています。古代の「国引き神話」とは、ヤツカミヅオミツノが、日本海周辺から余った土地を切り取り、綱をかけ引っ張る神話です。

ところで、古代の「国引き神話」は、いつ出雲の人々に知られるようになったのでしょうか。おそらくは、江戸時代半ば以降と考えられます。つまり、ここ約３００年の間に知られ、中世の出雲神話を凌駕するまでになったのです。

古代の神話なのに、なぜ江戸時代以降にと思う方もおられるでしょう。これは、神話が記された『出雲国風土記』の出雲地域での浸透度と関係します。『出雲国風土記』は、古代出雲のようすをまとめた書物ですが、天皇に進上されたもので、当時の人々に広く読まれたわけではありません。江戸時代半ば以降になって、『風土記』の研究が盛んとなり、その神話は広く人々に知られるようになります。

こうしてみると、出雲神話とは本来何であったのか。出雲の人々が語った中世と古代の神話の狭間で問い直してみたくなりました。

（髙橋　周）



出雲国風土記の写本
（県指定・個人蔵）

## ★指定文化財紹介⑧
### 市指定有形文化財（彫刻）
### 「岩野薬師（いわのやくし）　木造如来形坐像（もくぞうにょらいぎょうざぞう）」

岩野薬師は、ＪＲ直江駅の東、線路南側の浄土宗大光寺の背後にある岩野山にあります。薬師堂は、宝永３年（１７０６）に建てられ、それを示す棟札が残されています。

ここにまつられている本尊は、右足を上にして組んで坐り、両手を膝の上で組んでいます。言い伝えにより薬師如来とされていますが、両手の組み方から阿弥陀如来の可能性もあります。

その坐像は、１５０センチ近くある大きく立派な彫刻で、ヒノキの一木造、目は彫られたもので、腕や膝は別の木でつなぎ合わせてあります。現在は金色などに彩色されていますが、元々は白木であったと考えられています。

この彫刻の制作年代は、平安時代末期、今からおよそ８００年以上前のものと考えられ、丸顔、伏し目がちの表情や衣の表現など、当時の雰囲気をよく残しており、地元で長年大切にされていたことがわかります。

江戸時代に岩野薬師は、出雲郡（しゅっとうぐん）内一円で大々的に信仰されていた有名なお薬師様です。歴代の郡役人が管理を行っていたと言われ、現在は岩野薬師奉賛会が担われています。毎年９月８・９日の祭日には、奉納相撲が行われるなど、斐川地域有数のお祭りとなっており、たくさんの人々で賑わいます。

出雲市内にはたくさんの彫刻が知られていますが、大きな坐像で平安時代まで遡るものは少ないため、その意味でも貴重です。

このすばらしい仏像を拝観するには、大光寺（TEL 72 - ００７４）まで連絡をしてお出かけください。

（野坂俊之）

## ★発掘調査の現場から⑧
### 「斐川中央工業団地発掘調査②」

平成24・25年度にかけて発掘調査を実施している斐川中央工業団地予定地内には、杉沢遺跡、杉沢Ⅱ遺跡、杉沢横穴墓群が存在します。今回は、平成25年度の調査成果を簡単にご紹介します。

杉沢遺跡では、丘陵の尾根上に幅約９ｍの道路遺構を確認し、造成の規模や出土した須恵器から、古代の山陰道の可能性が高いと考えられます。

杉沢Ⅱ遺跡からは、弥生時代中期後半の竪穴住居跡において弥生土器や、透き通った青色のガラス小玉、そして袋状鉄斧などの貴重な遺物が確認されました。

杉沢横穴墓群では、これまでに15基の横穴墓を確認しており、出土した須恵器から、古墳時代終末期から奈良時代にかけての横穴墓群であると予想されます。

９月21日（土）にはこれまでの発掘調査成果について現地での説明会を開催しました。当日は好天に恵まれ、１３０名を越す見学者で賑わいました。

（幡中光輔）

現地説明会のようす
（杉沢遺跡の道路遺構）

## ★発掘調査速報展
### 「斐川中央工業団地　パート２」
### 10月30日（水）～12月28日（土）

前回の斐川工業団地の速報展では、平成24年度の調査成果を展示しましたが、今回は平成25年度の調査成果を展示します。

**〔主な展示品〕**

- 杉沢遺跡：古代山陰道と目される道路遺構出土の須恵器など
- 杉沢Ⅱ遺跡：竪穴住居跡出土の弥生土器・ガラス玉・袋状鉄斧など
- 杉沢横穴墓群：各横穴墓から出土した須恵器など

## ★館長講座（全3回）のご案内

**「お墓が語るヒトの歴史シリーズ」**

**①お墓の発明 ―「よみがえれ！」**
**11月9日（土）**

**②王墓の葬式 ―「よみがえるな！」**
**12月14日（土）**

**③古志のよすみ ―「こだわる！」**
**1月11日（土）**

●講　師　**渡邊貞幸**（当館館長）
●時　間　14時～16時
●受講料　300円
●定　員　80名

講座の受講には事前申込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

## ★第48回出雲市無形文化財発表会

**12月1日（日）**

●時　間　（開場　9時30分）
10時～16時
●会　場　斐川文化会館
●入場料　前売り　400円
当日　500円
中学生以下　無料
●プレイガイド
当館・各支所地域振興課、市民サービス課・斐川文化会館他

**上演8団体**
赤塚神楽佐儀利保存会
阿宮神能保存会
宇那手火守神社獅子舞保存会
大津三谷神社獅子舞保存会
差海神事舞保存会
神西神代神楽保存会
外園神楽保存会
羽根盆踊り愛好会

**展示**　直江一式飾り保存会

**子ども神楽**
宇那手火守神社子ども神楽
あい川保育園子ども神楽

無形民俗文化財に指定されている神楽や獅子舞など、各地に残る伝統芸能が一堂に会します。神話のふるさと「出雲」に息づく技と心をご体感ください。

羽根盆踊り愛好会

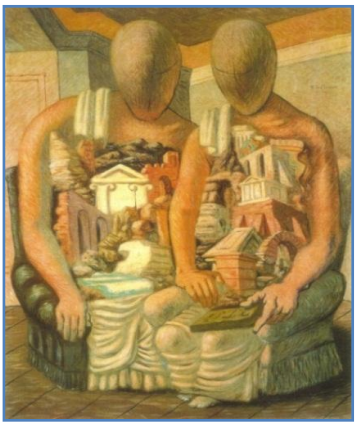
## ★館長コラム⑦

「考古」は、中国に昔からあった言葉で、「（資料に基づいて）古（いにしえ）を考える」という意味です。明治初期の日本人は、これを英語のアーケオロジーの訳語として利用しました。当初は「古事学」とか「古物学」という訳語もありました。

本来、アーケオロジーは「古代史」とか「古代学」という意味の言葉でした。ルネサンスの後、ヨーロッパでギリシア・ローマの遺跡や遺物の研究が盛んになったとき、こうした学問をアーケオロジーと呼ぶようになったのです。

18～19世紀、ヨーロッパにおける学問の進展は、アーケオロジー（考古学）の意味を大きく広げました。先日、104歳で亡くなった考古学者・斎藤忠博士は、考古学を「過去の人類の残した物質的資料、すなわち遺跡・遺構・遺物を研究し、これによって彼らの生活行動や文化の実態を明らかにする学問」と定義しています。

ただし、ヨーロッパでは考古学というと、ギリシア・ローマの研究をイメージする人が多いようです。シュルレアリスムの先駆者デ・キリコは、「考古学者」という絵を何枚も描きました（左はその一枚）。



どれも、身体の中にギリシア・ローマの建築物がぎっしり詰まっています。

（渡邊貞幸）

**（発行）出雲弥生の森博物館 2013年10月**
〒693-0011　島根県出雲市大津町2760
（TEL）0853-25-1841　（FAX）0853-21-6617
（e-mail）yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料／無料（特別展等観覧料を除く）
●開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）
●休館日／火曜日（祝日の場合は翌日）
●年末年始の休館日／12/29（日）～1/3（金）